

街並みイメージ【拠点】(案)について

拠点の選定

【利活用WGでの意見交換(抜粋)】

第3回

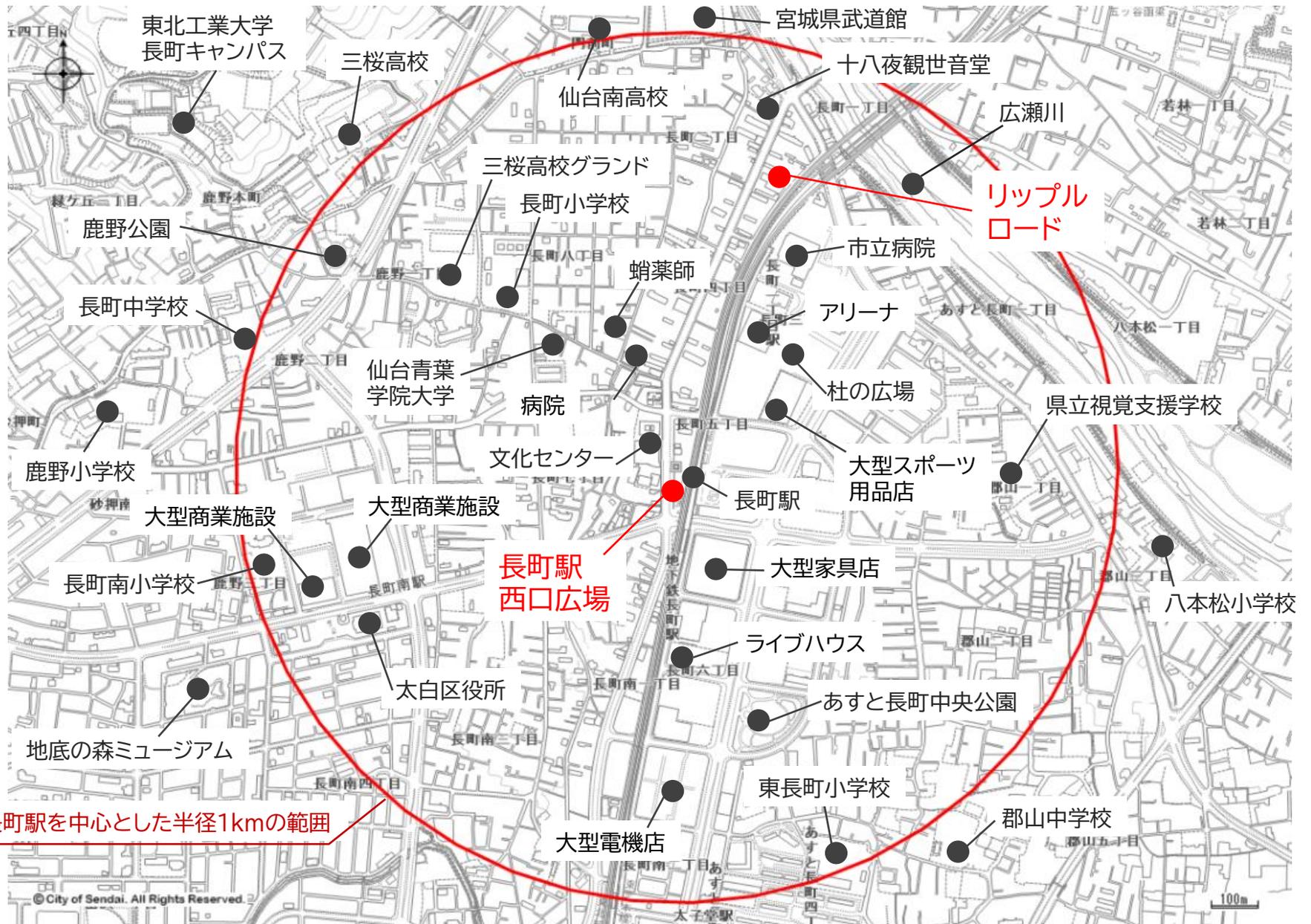
- ✓ 歩かせるための拠点作りが必要。長町駅前はエリアそのものが拠点になっているのでよいが、それ以外ではどこか集中的に基盤整備とコンテンツ作りをやる必要もある。
- ✓ 今回の社会実験で、一丁目がポイントになると感じた。一丁目のしかけがあることで、一丁目から長町駅前に向けて歩く人の流れも見られた。
- ✓ 社会実験をやってみたところ、長町駅前から一丁目に向かって歩く方もたくさんいただけでなく、逆に一丁目のリップルロード付近からスタートして駅前に向かって歩く方もかなりいた。

第4回

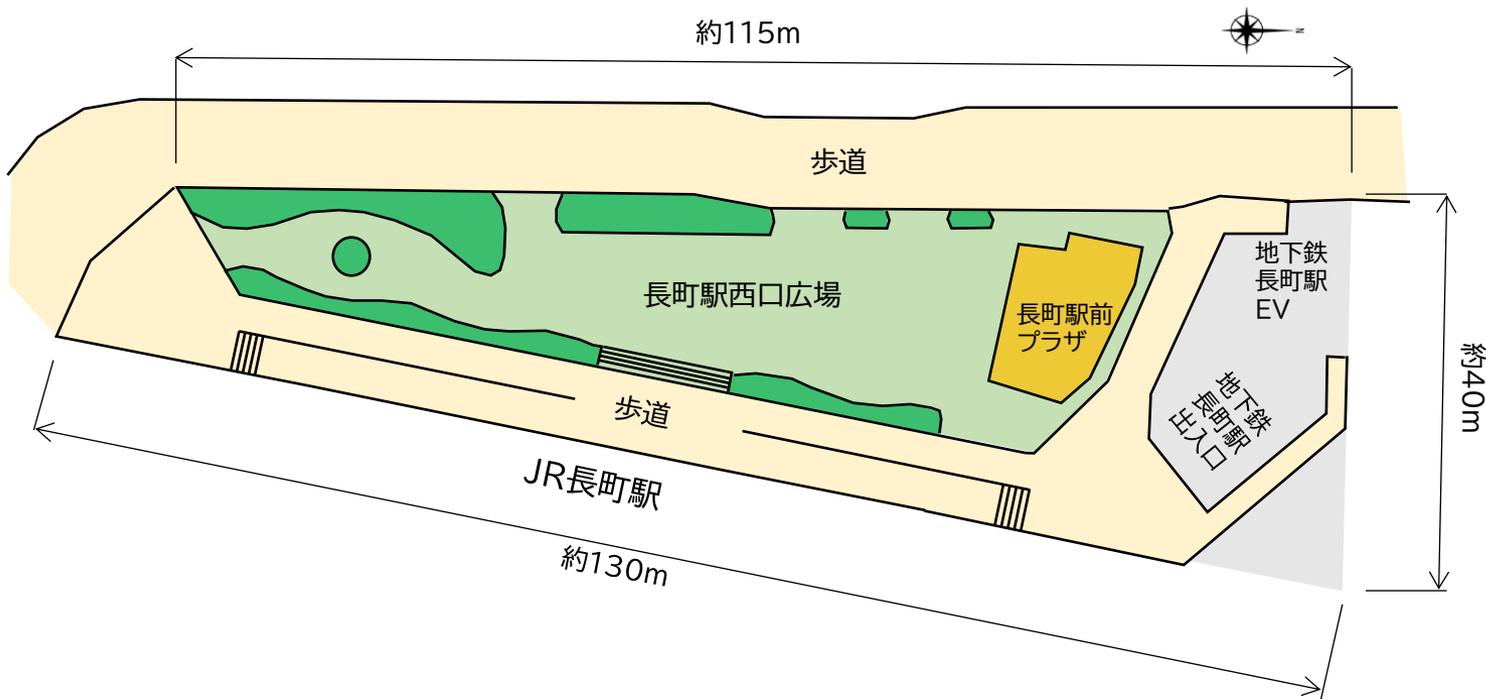
- ✓ 拠点を作って魅力があれば人は歩く。長町駅西口広場はもちろん、長町駅前プラザが拠点として環境的にも良いので、管理や積極的な活用の仕方を考えていく必要がある。
- ✓ 長町の拠点という意味での長町駅前プラザの利活用について考えていかなければならない。

歩かせるための拠点づくりが必要
「長町駅西口広場」「リップルロード」をエリアの拠点として活用していく

位置図



長町駅西口広場(特徴)



【好立地】
 駅に直結しているほか、周辺には住宅地や飲食店があり、多くの人を訪れることができる場所にある。

【交通利便性に優れる】
 鉄道2沿線、バス停、タクシープール、駐輪場が隣接している。

【ちょうど良い空間・施設】
 面積が約1,600m²と、地域の方や学生が活用しやすい大きさの空間であり、建物やトイレも設置されている。

長町駅西口広場の都市公園使用許可



【活用件数の少なさ】
 長町駅西口広場の活用にあたっては、地域や商店街の利用等が複数あり、令和6年度は令和5年度に比べ増えてはいるものの、賑わい創出のためには更に利用を増やしていく必要がある。

長町駅西口広場(これまでの議論)

【第4回利活用WGでの意見交換の内容(抜粋)】

- ✓ 長町駅前プラザを含む長町駅西口広場については、芝生を敷いたり、カフェがあったり、商店街を案内する案内所があったりと、楽しく魅力的な場所にしたい。
- ✓ 長町駅前プラザは、設立当時は画期的な施設だったが、社会的な要請が変わってきていて、公園でも収益をあげて運営していくことが求められている。

【街並み活用戦略】

戦略1 : 集客機能の活用強化

戦略4 : 夜の賑わい創出

戦略5 : 休日の持続的な賑わい創出

戦略6 : 学生活動のフィールド活用強化

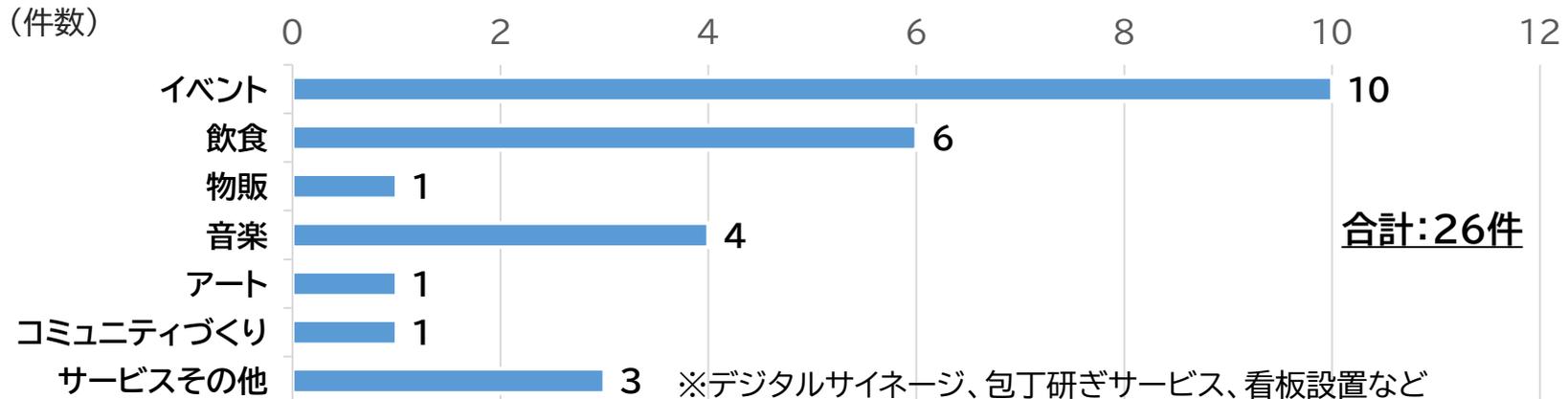
実践メニュー(例)

- ◆ 芝生広場や給排水・電源設備の設置
- ◆ 案内所機能強化
- ◆ エリアマネジメント団体の設立・運営管理

長町駅西口広場(ニーズ)

【応募者側(イベント等を企画・実施する側)のニーズ】

賑わい創出社会実験の応募状況



賑わい創出社会実験の応募者とのヒアリング内容

- 電源、水道を使用させてほしい。
- 仮設テント、テーブル、椅子等の物品を貸してほしい。
- 商店街の出店できる方、協力してもらえる方を紹介してほしい。
- 近隣の学校に接触したいので協力してほしい。
- 使用許可関係の手続きを実施してもらえるのは大変助かる。

【参加者側(イベント等に参加・来場する側)のニーズ】

賑わい創出社会実験の調査(歩行者通行量、居心地の良さを測る指標、アンケートなど)を通して検証

長町駅西口広場(方向性の案)

拠点1 : 【長町駅西口広場】長町地区の始まりの拠点

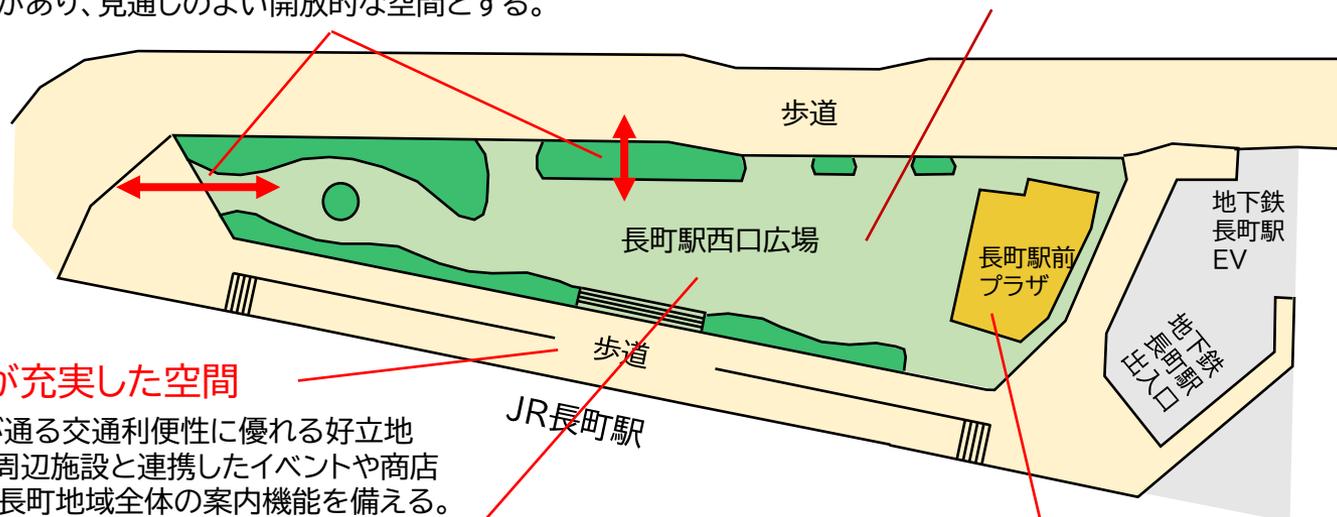
- 長町地区全体の中心に位置し、交通利便性に優れる好立地を活かし、まちとのつながりを感じられる空間を創出する。
- 多様な人がこの場所で何かを実施してみたい、参加してみたい、関わりたいと思うような始まりの空間を創出する。
- ここを拠点として、長町商店街エリアをはじめとした長町地区を歩いて移動したいと思うような空間を創出する。

オープンな空間

- ◆ 長町地域全体の始まりの拠点として、また、誰もが利用できる空間として認知度を更に向上させるため、まち(道路)と一体感があり、見通しのよい開放的な空間とする。

清潔な空間

- ◆ 誰もが利用しやすい、利用したいと思うような維持管理が行き届いた空間とする。



案内機能が充実した空間

- ◆ 多くの人を通る交通利便性に優れる好立地を活かし、周辺施設と連携したイベントや商店街の情報、長町地域全体の案内機能を備える。

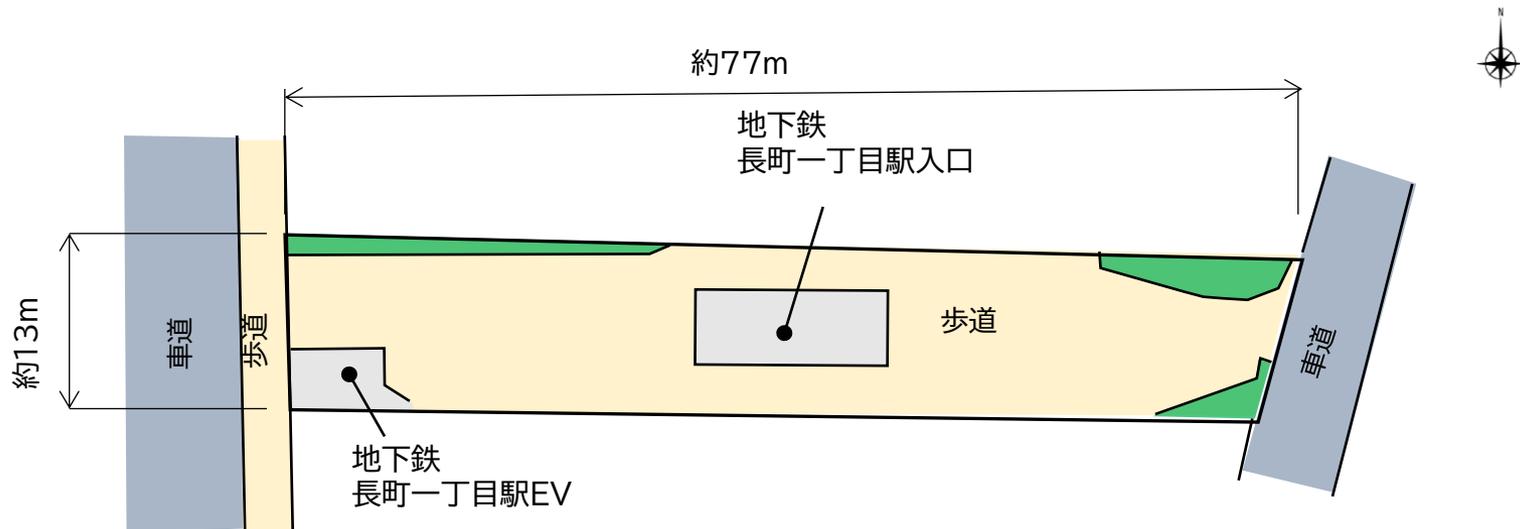
企画実現のための空間

- ◆ 賑わい創出社会実験では、様々な企画の応募があった。思いついた企画が容易に実現できるよう、仮設ステージや備品(レンタル)、給排水・電源設備等の環境を整備する。

居心地の良い空間

- ◆ 多様な人が活動しやすいコミュニティスペースやカフェ等の環境を整備する。また、広場部分と長町駅前プラザが一体的に利用できるような開放的な空間とする。

リップルロード(特徴)



【好立地】
駅に直結しているほか、周辺に住宅地や広瀬川、市立病院等があり、多くの人が訪れることができる場所にある。

【交通利便性に優れる】
鉄道、バス停、駐輪場が隣接している。

【閉塞的な空間】
周辺が建物で囲まれており、場所が認知しにくい。

令和6年度 リップルロードの利用状況

【利用がない】
令和6年度は灯ろう流しと社会実験の2件の利用のみ。利用できる空間としての認識がないと思われる。

R6広瀬川灯ろう流し



R6社会実験



リップルロード(これまでの議論)

【第3回利活用WGでの意見交換の内容(抜粋)】

- ✓ こども・ファミリーが外に出て来られるようなコンテンツが一丁目で展開できたらいいと思っている。
- ✓ 今回の社会実験で、一丁目がポイントになると感じた。一丁目のしかけがあることで、一丁目から長町駅前に向けて歩く人の流れも見られた。

【街並み活用戦略】

戦略3 : 周辺施設との連携強化

戦略5 : 休日の持続的な賑わい創出

戦略6 : 学生活動のフィールド活用強化

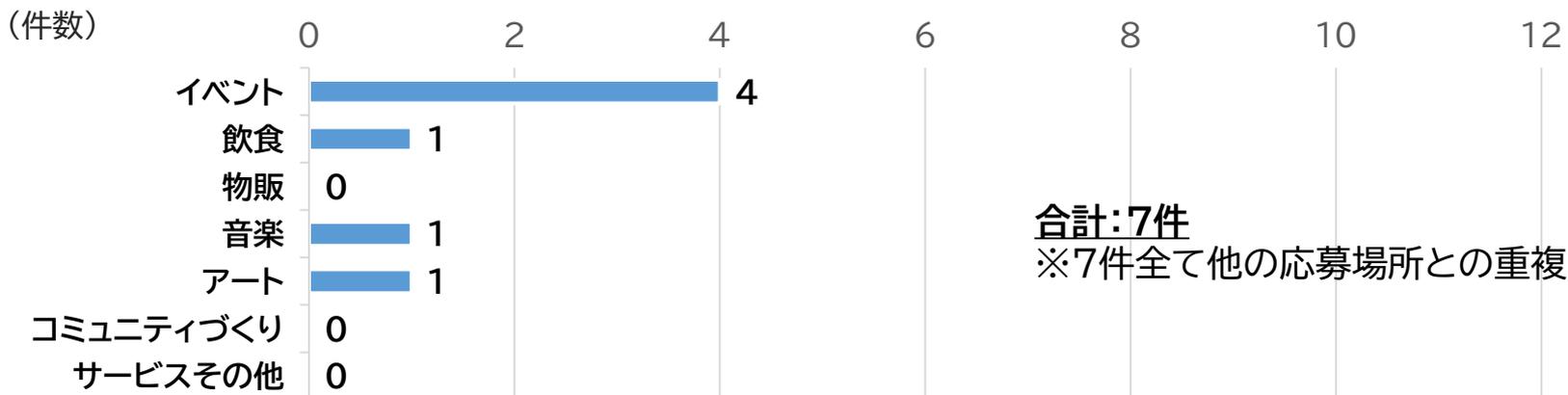
実践メニュー(例)

- ◆ 芝生広場や給排水・電源設備の設置
- ◆ ほこみちの指定
- ◆ エリアマネジメント団体の設立・運営管理

リップルロード(ニーズ)

【応募者側(イベント等を企画・実施する側)のニーズ】

賑わい創出社会実験の応募状況



賑わい創出社会実験の応募者とのヒアリング内容

- 電源、水道を使用させてほしい。
- 人通りが少ないイメージがある。
- 従業員が少ないので、出店できない。

【参加者側(イベント等に参加・来場する側)のニーズ】

賑わい創出社会実験の調査(歩行者通行量、居心地の良さを測る指標、アンケートなど)を通して検証

リップルロード(方向性の案)

拠点2 : 【リップルロード】未来に向けた交流拠点

- リップルは「波紋」「物事・影響が広がる様子」という意味。リップルロードを拠点に長町地区に影響を与える拠点を創出する。
- 誰もが気軽に立ち寄り、コミュニケーションが取れるような交流空間を創出する。
- ここを拠点に、長町商店街エリアのお店や周辺施設を歩いて移動したいと思うような空間を創出する。

空間の認知度向上

- ◆ 社会実験や企画等の実施を通して、誰もが活用できる空間であることを広める。

コミュニティ空間

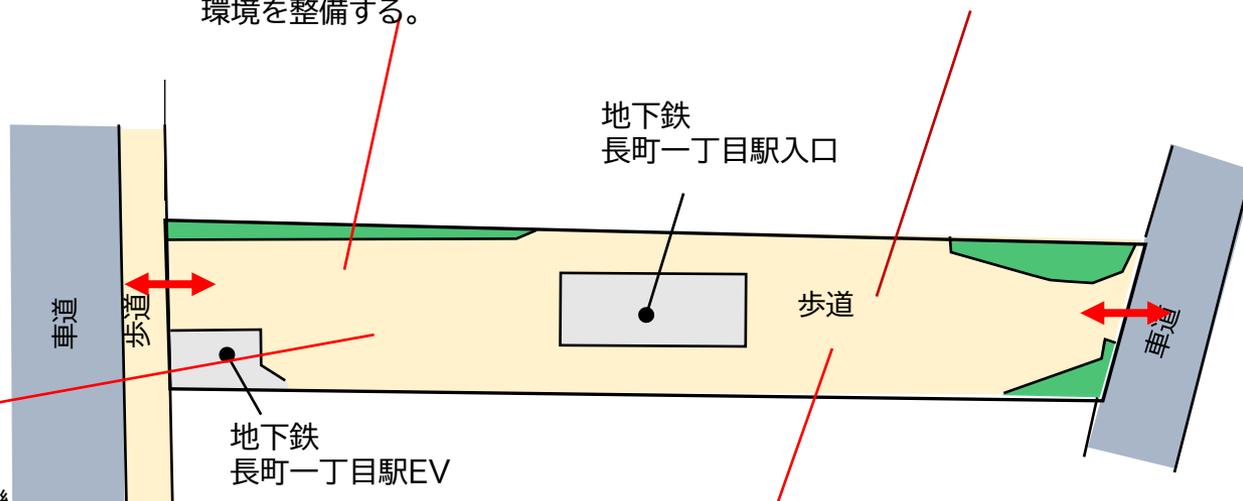
- ◆ 下校や帰宅時に立ち寄って、コミュニケーションが取れるよう、テーブルや椅子等の環境を整備する。

清潔な空間

- ◆ 誰もが利用しやすい、利用したいと思うような維持管理が行き届いた空間とする。

案内機能が充実した空間

- ◆ 施設や史跡等が周辺にある特性を活かし、周辺施設と連携した案内機能を備え、ここを拠点とした活動が活発になるような空間とする。
- ◆ また、空き店舗等の支援情報や商店街のお店情報を取得できる案内機能を備える。



滞在・賑わい空間

- ◆ 休日には飲食出店や遊び場が展開されるなど、誰もが気軽に立ち寄れるような空間を目指す。